

家庭教育力の強化を図ろう

～ よいところをほめ、伸ばし、笑顔いっぱい ～

豊川市立中部小学校 P T A

1 校区および学校の概要

本校は豊川市のほぼ中心に位置し、近くには市内を流れる佐奈川があり学校の授業においても、佐奈川を題材にした学習活動が取り入れられている。児童が学習で、町探検や社会見学で校区内のスーパーや工場、商店を訪れるなどして、地域との関わりを深めている。他にも、校区の体育振興会が主催する運動会(6月)や健全育成会主催の三世代大交流会(11月)などを通じて、接する機会の少ない年配の方とも有意義な時間を過ごし、家庭のみならず、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守っている。

2 研究のねらい

本校は「かしこく」「ゆたかに」「たくましく」を教育の柱として心豊かな子どもの育成に取り組んでいる。今回「家庭教育力の強化を図ろう」をテーマに、P T Aとして「中部小の子どもたちのためにいいところをとことんほめて、いいところをどんどん伸ばして笑顔を忘れないようにしましょう！」のローグを掲げ、教員と保護者、P T Aが一丸となり、子どもとふれあいを深め、子どもたちの心の拠り所となる「家庭」の大切さを改めて確かめたいと考えた。

3 主な活動内容

(1) 校区一斉あいさつ運動

P T Aの地区理事を中心に全家庭が交代で朝の旗当番を行っている。4月、6月、9月、11月、2月の「あいさつ強調週間」中は、教員・保護者・地域の見守り隊の方たちで、子どもたちに積極的にあいさつをしている。各地区のそれぞれの場所で登校時の子どもの様子を見て声をかけることで、危険箇所の確認や交通安全の啓発にもつながり、子どもの安全を見守ることができている。

家庭では、朝のあいさつが話題となり、子どもたちはしっかりあいさつできたことをほめられ、「あいさつすると(あいさつが)返ってくるのがうれしい」という子も出てきた。

(2) 親子ふれあい作品展

毎年、夏休み前に親子で協力しながら取り組んでいる。習字、絵画や制作物などの図工作品、手芸作品などが応募される。親子で共に同じ物作りをすることによって会話も増え、ふれあう時間も増えたなど、親子ともに嬉しい報告があがっている。



個別懇談中に学校の渡り廊下に作品展示をする。懇談のために来校された親も鑑賞できる。友だちとともに鑑賞し、友だちからの評価を家庭に帰り、笑顔で話す子どもたち。家庭でほめられ、次年度も取り組もうと意欲的になる子どもたちの姿が見られ、好評な活動である。

子どもの好きなアニメのポスターを描きました。親は下絵を描いて子どもは色を塗りました。絵の具の塗り方が上手になっていて、褒めたら嬉しそうに丁寧に仕上げていました。
4年保護者

子どもが布に型紙を取って切り取り、親が手縫いで仕上げました。針の使い方を習って家の雑巾を親子で縫ったら多少デコボコでも使い心地がよく家族に感謝されました。
5年保護者

(3) 親子読書の日

第3土曜日を家庭の日として、親子でふれ合う「親子読書活動」を行っている。テレビやスマホの電源を切り、親が子に、または子が親や兄妹に読み聞かせてもよしとして、それぞれに違う本を読んで感想を語ったり、本を紹介しあったりしている。親子読書の感想を、PTA会報委員会が「みつばち通信」として紹介している。同年代の子どもがどんな本を読んでいるのか参考になると好評である。

親子で本を

毎月第3土曜日は親子読書の日
「親子20分読書記録カード」から



1年生

王として、ポスターみたいな
うをぬるばしょがおもしろ

主人公にクラスの子達が
や行動にやさしさがあ、こ
らいいなあと思いました。

がしんでかわいそうでし
ゆきをたいじしてよかつ

2年生

すをつくる あやをほろ
しそんをのこすため、いろいろ虫たちは
くふうしたすをつくることをしました。すをつ
くっているところをかんざつしてみたいです。

虫たちのふしぎな生態に興味をもつきつ
かけになったので、本物の虫を観察させて
あげたいです。

穴どろ
どろぼうはわるいことだと思いました。お金
がなくてこまってこっそりよそのうちに入って

3年生

しっばいにかんぱい!
かなは、リレーでしっばいして、おち
こんでる時に、おじいちゃんから電話が
きて、みんなでごはんを食べながらしっ
ばいの話をする所で、ひろしのしっばい
でクラス一番あばれんぼうの子がすこ
くやさした所が心にとりました。
みんなそれぞれしっばいしているが、そ
のしっばいが人を大きくさせて、いつかいい
思い出になるんだと思いました。

月に一度のわずかな時間でも、家族で共通の読書タイムを過ごし、静かなひとときを共有する時間をもつことは家庭における人間関係が深まり、相互信頼を一層築くことができ、親子ともども笑顔が増してくるものと考えている。親子読書は、家庭の基盤づくりにとっても大切であることがわかった。

(4) 三世代大交流会

校区会主催で市子連（市子ども会連絡協議会）が中心になってPTA役員・健全育成委員（PTA学年委員も含む）・区長・子ども会会長・校区理事が企画、運営、130名ほどの方が関わっている。紙ヒコキ・紙トンボ作り、ボーリング、輪投げ、大ビンゴ大会の他、彫金作りやしめ縄作りなど、子どもたちが笑顔で参加する行事である。毎年、家のしめ縄を作るために参加するご家族もみえるほどである。親子で地域の方に物づくりを教えていただくことで、基本的なあいさつの仕方や目上の方への言葉づかいなど、地域の方々とのやりとりの中で関わり方の仕方も学ばせてもらっている。



しめなわづくりで、やさしく教えて
くれて、作れた時はうれしかった
です。早くかざりたいです。

4年男子

4 研究の考察

あいさつ運動で、「あいさつをしたら、返ってくるのがうれしかった」と笑顔で話す子ども。それを受け入れる家庭。親子で共同制作に取り組み、完成した時にともに喜び、評価されてまた親子で笑顔になる。親子で読み聞かせや地域の活動に参加して、「上手に読めたよ。」や「うまく作ったね。」これらの一言で、子どもたちは笑顔になり、家庭における居場所を実感する。「親は子どもにとって、人生で最初に出会う最も影響力のある『手本』なのです。」という言葉がある。親である保護者自らが楽しんでPTA活動に取り組む姿勢を見せる事は、子どもたちにとって人との関わりや責任感、他人への思いやり、感謝の心などが育つことがわかった。よいところをほめ、伸ばし、笑顔いっぱいになる姿は、心身の健全な成長につながるものと考えられる。

5 成果と今後の課題

上記以外にも、資源回収（環境委員会）、文化教室（交流委員会）の活動も行い、多くの保護者どうしが情報交換をしたり交流を深める機会を設けている。活動に対して「子どもたちの様子を把握でき、互いに情報を共有できる良い機会」という保護者からの意見が多く聞かれた。今後も学校・地域と連携しながら、子どもたちも保護者も共に笑顔いっぱいになるPTA活動をめざしていきたい。